

★学校教育目標 多様な個性を尊重し、一人一人が輝く児童の育成		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）		○自他の“いのち”を大切にし、自己肯定感を高める教育活動の実践 ○対話やICT、書籍を活用した学びの充実 ○一律一斉の学びから、自分に合った多様な学びの創造 ○児童自ら課題を見つけ、探求し、協働して考えを深め合い、課題を解決していく「学びの循環」 ○地域をステージとする学びの充実	
【めざす児童・生徒像】 ◎やさしい子 ○かしこい子 ○たくましい子			
【めざす学校像】 個性を發揮し合い子供が主役の楽しい学校			
【めざす教師像】 ○すべての“いのち”を守り、育む教師 ○子供一人一人を大切に温かい学級をつくる教師 ○授業力向上のため研鑽を重ねる教師 ○地域の人や組織とつながる教育活動を展開できる教師 ○学び合いを大切に、創造的な教育活動を展開できる教師 ○特別支援教育にかかわる専門的な知識・技能を身に付けた教師			

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準			学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点		
いのち	すべての“いのち”が輝き、よろこびあふれる未来をひらく教育の推進	互いに思いやり助け合う態度を育て、様々な人とかわる体験を重ねることにより、自他の“いのち”を大切に、自己肯定感を高める教育活動を実践する。	毎学期の思いやり週間の実施と振り返り、全校朝会でのSOSの呼びかけの実施、日常的な道徳の授業の中で対話的な活動を中心に、自己理解、他者理解を深める。そして、学年の実態に応じた学級指導を通して、自他の「いのち」の価値を見つめ、尊重する態度を育成する。	4 3 2 1	学年の実態に応じた学級指導を通して、全ての「いのち」の価値を見つめ、尊重する態度を育成することができたと回答した教員が90%以上 学年の実態に応じた学級指導を通して、全ての「いのち」の価値を見つめ、尊重する態度を育成することができたと回答した教員が85%以上 学年の実態に応じた学級指導を通して、全ての「いのち」の価値を見つめ、尊重する態度を育成することができたと回答した教員が80%以上 学年の実態に応じた学級指導を通して、全ての「いのち」の価値を見つめ、尊重する態度を育成することができたと回答した教員が80%未満	4 4 2 1	「自分も周りの友達も大切にすることができた」と回答した児童が90%以上 「自分も周りの友達も大切にすることができた」と回答した児童が85%以上 「自分も周りの友達も大切にすることができた」と回答した児童が80%以上 「自分も周りの友達も大切にすることができた」と回答した児童が80%未満	コロナ禍で人と関わる機会が減少している今だからこそ学校でたくさんの方とつながることが良いと感じてほしい。自分と同じように友達も大切にすることを類似体験（物語を読むことや想像力を働かせて）や経験を通して実感してほしい。「いのち」について関心が高いことが伝わった。児童の様々な実態はあるが、学年に合った授業を行っていると思う。
学び	一人一人を大切にしながら多様な学びの実現	一律一斉の学びから、自分に合った多様な学びの創造。児童自ら課題を見つけ、探究し、協働して考えを深め合い、課題を解決していく「学びの循環」を実践する。	校内研究の授業構造化、発問・問い返し、自由進度学習の3分科会の視点から、児童の論理的思考力や表現力を育む授業づくりを目指す。	4 3 2 1	校内研の授業や日々の授業研究を通して、児童が粘り強く学び続けるための授業づくりについて学ぶことが出来たと答えた教員が90%以上 校内研の授業や日々の授業研究を通して、児童が粘り強く学び続けるための授業づくりについて学ぶことが出来たと答えた教員が80%以上 校内研の授業や日々の授業研究を通して、児童が粘り強く学び続けるための授業づくりについて学ぶことが出来たと答えた教員が70%以上 校内研の授業や日々の授業研究を通して、児童が粘り強く学び続けるための授業づくりについて学ぶことが出来たと答えた教員が70%未満	4 3 2 1	「授業中、友達の考えを聞いたり、自分で学習の仕方を工夫したり、ノートの書き方を工夫したりして、粘り強く学習に取り組むことが出来た」と答えた児童が85%以上 「授業中、友達の考えを聞いたり、自分で学習の仕方を工夫したり、ノートの書き方を工夫したりして、粘り強く学習に取り組むことが出来た」と答えた児童が80%以上 「授業中、友達の考えを聞いたり、自分で学習の仕方を工夫したり、ノートの書き方を工夫したりして、粘り強く学習に取り組むことが出来た」と答えた児童が75%以上 「授業中、友達の考えを聞いたり、自分で学習の仕方を工夫したり、ノートの書き方を工夫したりして、粘り強く学習に取り組むことが出来た」と答えた児童が75%未満	先生の話を一方向的に聞く受け身の学習ではなく、自ら考え発言したり友達の考えを聞いたりしてグループ討論する等、自発的な学習方法は、楽しく身に付くように感じる。先生達が工夫して授業を進めたりして分かりやすい授業を心掛けていることが宿題等で感じる。子供が答えやすい発問は大事。自分の考えを整理して口にする、ノートに書くことを習慣化してほしい。
学び	一人一人を大切にしながら多様な学びの実現	一律一斉の学びから、自分に合った多様な学びの創造。児童自ら課題を見つけ、探究し、協働して考えを深め合い、課題を解決していく「学びの循環」を実践する。	学習場面において意図的、効果的にICTを活用することで、協働して考えを深め合い、課題を解決していく活動を実践する。ミライシードのドリルパーク等を活用して、既習内容の定着や自らの習得状況や関心に応じた学習に取り組めるようにする。	4 3 2 1	授業において協働的な学びを行ったり既習内容の定着を図ったりするために、積極的にICTを活用することができた教員が80%以上 授業において協働的な学びを行ったり既習内容の定着を図ったりするために、積極的にICTを活用することができた教員が70%以上 授業において協働的な学びを行ったり既習内容の定着を図ったりするために、積極的にICTを活用することができた教員が60%以上 授業において協働的な学びを行ったり既習内容の定着を図ったりするために、積極的にICTを活用することができた教員が60%未満	4 3 2 1	ICTを使って、「クラスの友達の考えを知ること、自分の考えが深まった。」「苦手な学習に進んでチャレンジすることができた。」と答えた児童が80%以上 ICTを使って、「クラスの友達の考えを知ること、自分の考えが深まった。」「苦手な学習に進んでチャレンジすることができた。」と答えた児童が70%以上 ICTを使って、「クラスの友達の考えを知ること、自分の考えが深まった。」「苦手な学習に進んでチャレンジすることができた。」と答えた児童が60%以上 ICTを使って、「クラスの友達の考えを知ること、自分の考えが深まった。」「苦手な学習に進んでチャレンジすることができた。」と答えた児童が60%未満	ICTを活用した授業を日常的に実践していくことで、児童、教員共にICTの有効性を実感することができた。今後は実践例や活用例の教員間での共有機会をさらに増やし、より有効的な活用方法を学校全体で開発して、個別最適な学びや児童の協働的な学びにつなげていきたい。
学び	一人一人を大切にしながら多様な学びの実現	一律一斉の学びから、自分に合った多様な学びの創造。児童自ら課題を見つけ、探究し、協働して考えを深め合い、課題を解決していく「学びの循環」を実践する。	第二図書館を読み聞かせや読書ルール・情報活用センターとして活用することで、読書活動の充実を図り、豊かな情操を育む。一人1台端末と図書を有効的に活用して、自らに合った学び方、目的に合った方法で課題を解決する力を育成する。	4 3 2 1	「読書活動指導計画」を基に学校図書館や市立図書館を活用し学習指導を行った教員が80%以上 「読書活動指導計画」を基に学校図書館や市立図書館を活用し学習指導を行った教員が70%以上 「読書活動指導計画」を基に学校図書館や市立図書館を活用し学習指導を行った教員が60%以上 「読書活動指導計画」を基に学校図書館や市立図書館を活用し学習指導を行った教員が60%未満	4 3 2 1	「自分の読みたい本や知りたいことが書かれている本や資料を学校の図書館や市立図書館で探し、活用することができた。」と回答した児童が80%以上 「自分の読みたい本や知りたいことが書かれている本や資料を学校の図書館や市立図書館で探し、活用することができた。」と回答した児童が70%以上 「自分の読みたい本や知りたいことが書かれている本や資料を学校の図書館や市立図書館で探し、活用することができた。」と回答した児童が60%以上 「自分の読みたい本や知りたいことが書かれている本や資料を学校の図書館や市立図書館で探し、活用することができた。」と回答した児童が60%未満	調べたいことがすぐに調べられる図書館であって欲しい。知的好奇心を満たし、その先へ導いてくれるような本の出会いが子供を成長させる。イスではなく座って本を読める環境は、子供の心にゆとりを生むと思う。わくわくドキドキしたり、多くの知識を得たり、読解力を身に付けるなどして欲しい。
地域	地域をステージとする学びの充実と幼保小中・特別支援学校とのつながりによる一貫した教育活動の充実	地域をステージとする学びを充実させ、幼稚園・保育園、近隣の小中学校、七生特別支援学校とともに地域共生社会を築くべく、つながりによる教育を展開する。	地域の多様な人材である幼稚園・保育園や、近隣の小中学校、七生特別支援学校などと、互いの生活や学習活動を紹介したり、遊んだりして交流し、多様な個性を尊重し合える関係づくりをする。	4 3 2 1	「地域の人材を活用して授業を行い、交流を深めることができた」と回答した教員が90%以上 「地域の人材を活用して授業を行い、交流を深めることができた」と回答した教員が80%以上 「地域の人材を活用して授業を行い、交流を深めることができた」と回答した教員が70%以上 「地域の人材を活用して授業を行い、交流を深めることができた」と回答した教員が70%未満	4 3 2 1	「地域の人と学習して、これからも交流を続けたいと思った」と回答した児童が90%以上 「地域の人と学習して、これからも交流を続けたいと思った」と回答した児童が80%以上 「地域の人と学習して、これからも交流を続けたいと思った」と回答した児童が70%以上 「地域の人と学習して、これからも交流を続けたいと思った」と回答した児童が70%未満	留学生達と積極的に交流する姿が見られた。多種多様な人々と交流することで、子供たちは多くの刺激を受け、学びを得られると思う。近隣の小中学校、特別支援学校などと積極的に交流を行っていると思う。ふれあいや学びを通して、地域の一員としての自覚が生まれるとよいと思う。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。